



# Time Limit ( 決断の時 )

2013年10月1日に消費増税が決定された。この事の**重大な間違い**は来年4月以降に始まる。そのための準備は？



国民がどう叫ぼうが、喚こうが、懇願しようが、耳を傾けないのが権力者の特権でもある。選挙の時だけ平身低頭、「お願い」「お願い」を連呼し、通ってしまえばこっちのもの『国民の生活は二の次』、が政治家(権力の座に着いた者)の正体。「期待し、騙された私がバカだったのね……」そうです。バカだったのです。国民の90%がバカだったのです。この馬鹿さ加減に、いい加減気がつきましょ。麻生政権末期の自民党の体たらくに嫌気を覚えて、『一度は政権を担当させてみよう』と、かつぎ出した民主党は、とんでもない亡国政党であった。国民のバカさ加減の象徴でもあった。政治家もひどいが、国民の方がもっと程度が悪いし、低い。それ故に、官僚天下、政治家天国になっている。



私の個人的利益からの見解からすれば、大企業の収益など知った事か！貿易収支なんて日本の経済全体に占める割合は微々たる物でしかない。この2年間赤字(原発停止後の石油輸入量の増大が影響)なだけで、それ以前は円高でも20年間(2~15兆円)連続黒字もって円高が進み2011年3月17日の76円25銭/\$の最高値以上に上がって欲しい。いつか1ドル50円時代が来るなどというトンデモ評論家まで登場した頃だ。『早く、トンデモ評論家の言うとおりになって欲しい』とさえ思った。外国に在住する日本人や、輸入企業/業者にとっては円高大歓迎である事は間違いない。自国通貨が高く評価される事に、誇りを持つべきだし、いいものが安く買える事によって豊かさも享受できるはずなのに何故か？

正体は少女か老婆か？



すわり心地は？

円安メリットを享受しているのは誰か？日本経済がデフレ状態で得する国はどこか？国民は、生活(家計)防衛のために何をしなければならないのか？中小零細企業は、現業の延長線上に明るい見通しがあるのか？増税分の給与の引き上げが出来るか？

バカな日本人からの脱却を果たすためには、これらの答えを自分なりに持たなければならない。『どう考えたって、なるようにしかならないから、成り行きに任せるしかない』で、今まで来た。これが日本人の実体だ。来年4月以降はそうは行かなくなる。

物価上昇、増税分の給与引き上げが出来ない経営者は、社員に対する責任を果たせない経営者として、その席に居座るべきではない。そういう経営者が巷に溢れ出る。物価上昇、増税を招いたのは経営者の責任ではない。大企業優先、米国優先、国民不在の政権であり、それを主導した官僚であるが、尻拭いしなければならないのが経営者の役割分担責任だという事だ。(実に割りの合わないばかばかしい役職に就いてしまったと感じたら、さっさと辞める事だ。辞められないなら戦うしかない)

『年金だけが生活のよすが』という高齢者人口が年々増加してくる事は間違いない。バブル期以前の年金制度では、物価スライド制で年金の増額支給があった。この考え方で行けば、増税分だけ年金支給額が増額されなければならないが、デフレを理由に検討されている事は減額だ。「それだったら、デフレ脱却前に増税なんかするなよ」と今頃騒いでも後の祭り。**減額+増税**。

もっと深刻なのは、労働者人口に入っている若者達の重税(負担率の増加)だ。「関係ない、クソ爺やクソ婆のために何で給料が減らされなきゃならないんだ！」という不満は半端ではない。額面給与が若干増えても、控除される金額の方がドンドン増えて、手取り給与は年々減って行く。彼らに手取り収入と労働意欲を向上させ、活気ある社会(会社)に変身させられるかどうか今から、来年4月以降を見据えた対策と、心構えを準備する事が、本当の意味での『危機管理』であり、サバイバルである。Time Limit は、今期末2014年3月末という事だ。



## 『一度ならずと二度までも』『二度ある事は三度ある』の時代にどう対処するか。



昔は格好よかったが！

その昔、月光仮面のおじさんという正義の味方がいたが、とうに亡くなってしまっただろう。何が正義で、何が悪かの判断基準すら複雑怪奇になってしまった時代に於いては悪のはびこる社会が蔓延してもおかしくない。大声を張り上げて恫喝したり、猫なで声で擦り寄って、ミカジメ料を巻き上げるヤクザの世界のような世相でもある。

「消費増税反対ではない、今の時期は(デフレ下で)してはいけない」という国民の声を無視して、「今のタイミングをはずしては、消費税増税は実現できない」という駆け込み理由からだけで誤った判断を下した。こんな事なら、もったいぶってここ迄「経済状況を見極めて判断する」などという詭弁を弄する事はなかった。詭弁士の正体を現し、今度は『TPPは、国家100年の計』等と言い出して来た。戦後レジューム70年からの脱却を目指すんじゃなかったのか？更に、あと100年戦後レジュームを延長させるTPPへの参加に積極姿勢を示して来た。誤った判断が、国民を如何に窮地に貶めるか、など全く考えていない事が明白となって来た。

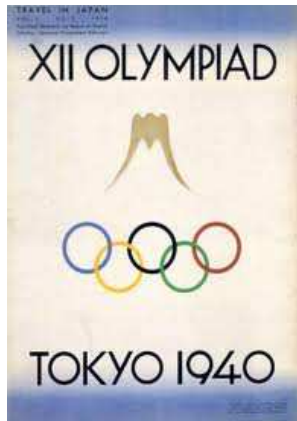
残念ながら、長期政権を望むまでもない。又しても、任期を全うできず短命内閣で終わるのか？官僚や政治家の命などどうでも良い。一番大切なのは、まともな国民の命だけだ。もし、自分がまともな国民であるという自覚があるなら、自己防衛のための準備をしなければならない。

もし、まともな経営者であるという自覚があるなら、備えなければならない。ボーイスカウトのモットー(規範)は、『そなえよつねに』である。何のために？誰のために？いつ？今でしょう。仏教の根本思想は、諸悪莫作(しよあくまくさ)衆善奉行(しゅうぜんぶぎょう)自浄其意(じじょうごい)＝諸々の悪い事はしない。皆に喜ばれる良い事はする。いつも心身を清浄に保とう。という事になっている。タイ(上座部)仏教と日本の禅宗ではこの思想が根本となっている。『3歳の子供でも分かりやすい内容だが、80歳の老人でも出来ない』という逸話もある内容だ。



徽章に表示

ためらっている時ではない。まともな人が当然すべき事は、分りきった事を素直にやる事だ。♪分かつちゃ居るけど、止められねー♪は、(故)植木等に任せて、80歳の老人にも出来ない事をやってのけるかどうかだ。『危機管理』とか、難しい言葉を使わなくても、やるか、しないか。



幻のポスター

今の日本は、タイ・チェンマイほどマツタリとした時間が流れているわけではない。不安心理を煽るわけではないが、今の日本は今までの日本ではないという事を皆分っているのだろうか？福島の復興が遅れ遅れになっているというのに、首都直下型、南海トラフ大震災に襲われたら、ユーロ圏、米国の双子の赤字が破綻したら、中国・韓国が経済破綻したら、日本国内で消費税増税の反動が予想以上に大きく景気の悪化を招いたら、法人税減税が実施され、国民所得に反映されなかったら、

2020年の東京オリンピックもぶっ飛んでしまうような事態になりかねない要素を余りにも多く抱え込んでいるという事だ。(第1回東京オリンピックは、1940年(昭和15年)に開催が決まっていた)史上初めて欧米以外の有色人種国家であり、アジアで行われるオリンピック大会、そして紀元二千六百年記念行事として準備が進められていたものの、日中戦争の影響等から日本政府が開催権を返上、実現には至らなかった。今の国内情勢、海外情勢、近隣国との情勢が余りにも酷似している。

無名の一国民がすべき事、中小企業経営者が取るべき行動、正に決断の時だ。

答えは一つ。『自主防衛と相互扶助』現状の延長線上に明るい未来はない。現業の延長線上に繁栄の道はない。と見定める事が出来るかどうか、身を守り生き延びる事が出来るかどうかという事だ。

消費増税の一年先送りすら『決断』出来ない首相は、「痛恨の極み」とまで言った靖国参拝すら秋の例大祭を真榊の奉納という事でお茶を濁した。中小零細企業の頑張りで支えている国柄さえも、大企業優先・外国企業の優遇誘致・法人税減税・TPP参加加盟による国家崩壊を目論んでいる。これに、又、天災が襲って来たら『想定外』では済まされない。



厳冬下で

民主党という、トンデモ政党に政権を託してしまった間違い以上に、厳しい時代が寸前まで迫って来ているという危機感を、どれだけ国民・中堅/中小零細企業の経営者達が分かっているのだろうか？『グローバリズム』とか、『新自由主義』と呼ばれている大津波が日本全土を飲み込もうとしている轟音を聞き分け、とる物も取りあえず、避難先と避難方法を至急に『決断しなければならない時である』と、提言しておきたい。

第二ステージを迎えたPureThaiは、冷凍生100%ローヤルゼリー『PureThai』の拡販中。

## 生ローヤルゼリー未知の魅力と注意…そして、夢・決断！



元気なミツバチ

ローヤルゼリーは、専門家の間では略称で、RJと呼ばれています。健康食品の中では余りにも有名であり、その効果の程が実証されているが、まだ解明されていない未知の成分や働きを秘めた、魅力的な健康食品です。

投薬の限りを尽くし、これ以上の手立ては無いという患者に、RJを与えたところ見る見る元気を回復し、患者は勿論の事、医師までも驚くほどの事例が身近でも、世界中でも報告されています。

だからといって、RJは医薬品ではありませんし、効果を保証するものでもありません。飲用した人にしか効果は実感できません。

日本の薬事法の規制から、販売に当たってRJは効果がありますよと表現してはいけな事になっています。もし、RJを飲み始めて、長年悩んでいた持病が快復したり、治ってしまったとしても、その事を100人に伝える事は構いませんが、RJを自分の体験を下に一人に勧める(購入を奨める)ことは禁止されています。

健康食品と、医薬品との差別化のための法規制です。あくまでも、購入者個人の意思によって『薬効ありと』判断して購入・飲用する分には法に触れません。逆に医薬品認定されずに、健康食品である事が、もっけの幸いです。



72時間後の幼虫

この生の元乳こそが正真正銘の生ローヤルゼリーそのもので、この状態のまま、冷凍し、直接食して頂けるのが冷凍生100%ローヤルゼリー『PureThai』です。

人間の身体に良いとされる栄養成分や、ミネラル、ホルモンの分泌を促すとされている脂肪酸などを多く含有している事は分かっていることですが、それらの成分のバランスと、働きに関しては未だ解明されていないが故に、未知の魅力満載という貴重な健康食品です。

貴重な意味は、希少価値をも含みます。1960年頃日本に初めてRJが紹介された時の価格は1g1,000円だったそうです。(当時の学卒初任給13,100円)

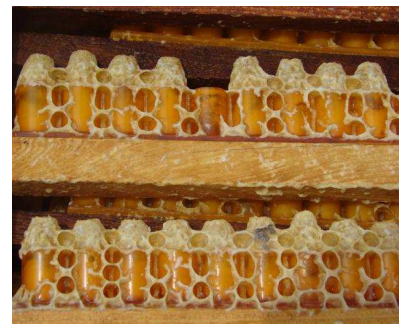


共同分業作業が決めて

その拠点としてのチェンマイが、来年4月以降存在感を現して来ます。

ビジネスビジョンを描きながら、来年の消費増税が開始され、日本の中小企業経営者、一般消費者が悲鳴を上げ始める頃を目指して、PureThai Wellness Programを企画しようとも考えています。今、正に未来に向けて決断の時です。

健康に不安を抱えている高齢者に、徹底して元気を提案する三種の神器(タイ古式マッサージ・天然パワー温泉・生ローヤルゼリー)がチェンマイにあるからです。



王台に溜まったRJ

人間社会では、こういうつまらない法規制がまかり通っていますが、ミツバチ社会では規制がありませんから、働き蜂たちはせっせと花蜜と花粉を採取し、RJを作っては女王蜂や、女王蜂候補生の幼虫に与え続けています。産卵したての1mmほどの幼虫を人工王台に移植する作業は、手先が器用で、視力のよい女性が担当しています。

3日(72時間)後には、丸々太った幼虫がいよいよよさなぎの時期を迎えようという時です。この瞬間に、幼虫を取り出し王台の中のRJを掻き集めたものが商品としての生RJの元乳です。



産卵後の幼虫を移植

日本への輸入量は、ピーク時の平成8年度949tに対し、平成12年度467t、49.1%減と大きく落ち込んでいます。主たる輸入元の中国が、減少分をフランスへの輸出に切り替えた事が原因です。タイからの輸入量は、10~14tで全輸入量の2%という現状です。

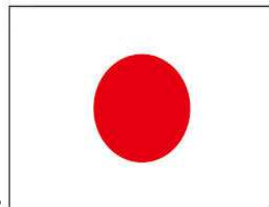
今後、更なる日本の高齢化人口の増加に伴い健康食品需要が高まると共に、高品質のローヤルゼリーの需要も高まって来る事は必定です。需給関係から、価格の高騰も予測されます。

それならば、拡販と並行して生産分野への展開も将来(未来)産業への足がかりとなるでしょう。



## 『日の丸』『君が代』 異聞

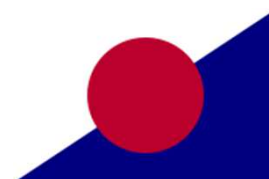
日本に居ては、日本人である事を無意識の中に沈めて、自分が日本人である事と、日本という国がどういう国であるかという事を考えたり、意識したりする事は殆どないのではないだろうか。安部政権のスローガンは、『日本を取り戻す』だが、いったいいつ頃の日本を取り戻そうと考えているのか安部首相以外の誰も分からない。はっきり分っている事は、『取り戻さなければならない日本』になっている事だ。更にいえば、今、もっと取り返しのつかない日本に変えようとしている事だ。国外に居て危惧する所はこの一点だ。



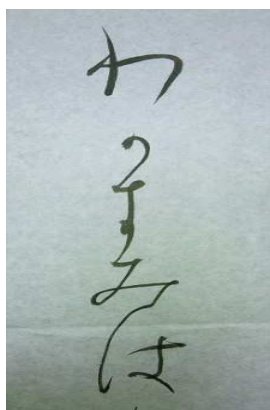
日の丸(日章旗)を国旗、君が代を国歌と制定したのは、1999年(平成11年8月13日)である。エー！と思ってしまう人も少なくないだろう。子供の頃小学校で習い、斉唱し、掲揚された旗は何だったんだ。もう一つの日の丸は(旭日旗)で、これは明治以来大東亜戦争まで軍旗として使われ、現在でも陸上・海上自衛隊で使われている旗であり、法律上の制定はない。



三番目の日の丸を見聞きしたのが初めてという方も少なくないでしょう。これは『税関旗』です。海と空をつなぐ日本を表したもので、何と、明治時代から使われていたそうです。でも、どことなく隣国の国旗に似ているような配色で、親しみを感じないというのは私だけでしょうか？



やはり、日章旗の意匠は単純明快ですばらしいですね。この意匠に惹かれたイギリスから、『1874年(明治7年)の春頃にイギリスが買収(当時の500万円)を申し出て、寺島宗則外務卿を相手に交渉した、としている。』というような逸話まであります。



次は、国歌だが、古今和歌集巻七賀歌巻頭歌(題しらず、詠み人しらず)が元となって、その後、鎌倉時代の和漢朗詠集から、現在の♪君が代は、千代に八千代に…♪となったようである。そんな事はどうでもいいじゃないか、と云うなかれ。

あらかたの人は、『君が代は…』君=大君(天皇)を意味していると思っているし、そう教えられても居る。不勉強な教師は、そのまま鵜呑みにしてオウム返しで教えている。これに反発しているバカ教師も腐るほど居る。言葉の真相を深層まで掘り上げて研究している学者の話をきいてみよう。

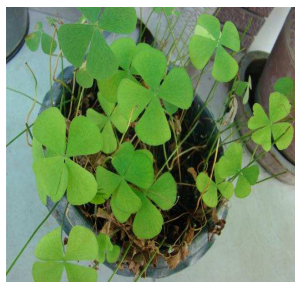
元になった、古今和歌集では『わが君は、千代に八千代に…』となっている。その内、最初の『わが』がなくなって、『君が代は』に変わっている。『わが』は、紛れもなく『私の』であろう。次の『君』だが、本当は、『き』『み』だそうだ。

『き』とは、伊邪那岐命・『み』とは、伊邪那美命である。という説を唱えている歴史学者が居る。古事記・日本書紀に登場する日本の国産み伝説上の命であって、歴代天皇や、今上天皇を讃える歌ではなく、賀歌(江戸時代までは、新年を寿ぐために歌われた)ということだ。読者諸兄が大好きな、男と女の体の違いに気づいた二人の命が、違う部分を重ね合わせたら次々と子供が生まれたというお話が原点の、なんともおめでたい歌ではないか。少子高齢化時代に尤も相応しい国歌でもある。改めて大きな声で斉唱しよう♪♪♪。



古事記・日本書紀を読んでいて連想するのが、アダムとイブ伝説との共通点でもある。これは、旧約聖書の分野だからユダヤ教やカソリック教徒の根本原理に通じる所もあるだろう。日本人の原点に、『消えたユダヤの民が移入してきた』という説もあり、ではないか？とも思えてくる。

読者諸兄を更に、悦ばせるような説が江戸時代に入ってから出てくる。こうなると天皇賛歌と言って良いのかすら、憚れる内容だが、これも知識として知っておこう。江戸時代には、性を含意した「君が代は千代にやちよにさゞれ石の岩ほと成りて苔のむすまで」(「岩」が男性器、「ほと」が女性器を、「成りて」が性交を指す)に意識された。



いづれにせよ、意味深な歌(和歌)が歌い継がれ、現在の国歌にまで至った事はある意味、日本人の原点を見る思いでもある。恐らく、この解釈は学校教育では教えられないでしょうね。何で、教えられないかという問題点が、本当は一番の問題点だと私は危惧していてもいます。結論を言えば『チェンマイにいらっやい。全ての疑問は解決します』ですが、『何でチェンマイ?』と思っている内は悶々とした時間を過ごすしかないでしょう。

決断と共に、日の丸・君が代の認識に変化があったら幸いです。